

～前号より～

インドネシアの文化と日本

No.4

クエアでは自治体の海外経済活動に対して、より効果的な支援を行うため、経済交流課に経済アドバイザー（商社 OB）を配置しています。海外経済活動に必要な基本情報から、輸出入業務や海外でのイベント展開、商談を行う際の注意点などの個別具体的なアドバイスまで、専門的見地からの助言を行っています。どうぞご活用ください。



4. インドネシアの言葉

インドネシアの言葉は、発音が日本語によく似ているので覚えやすい。ここで話すの



<http://www.hankyu-travel.com>(海洋交易の中継地ベナン島ジョージタウンの町並)

は、いわゆる言語学や外国語としてのアカデミックな話ではなく、市場交易で交わされる“海峡マレー語”と同程度の話言葉の一例として理解して欲しい。そしてインドネシア語入門のきっかけと、日本語との類似性についてロマンを感じてもらえると筆者として喜びに堪えない。

筆者がインドネシアへ初めて出張を命じ

られ、先輩から一夜付けのインドネシア語の覚え方を伝授された方法は“米は「ナシ」、魚は「イカン」、菓子は「クエ」、人は「オラン」で、死ぬは「マテ」、”と言った調子である。まるで“「イクニ」作ろう鎌倉幕府”という語呂合わせのようなものである。インドネシア語はほぼローマ字の発音に通じる。文法、語形の変化はあるが、日本語の発音に近く覚えやすいことと、日常会話では単語を並べるだけで意味が通じ、時制の文法はなく、過去を表す時は、「昨日」という意味の“クマリソ、未来を表す時は、「明日」という意味の“ベソック”をつける。

日本語と類似している発音の例は以下の通りで、いささかこじつけの感があるが、これほど似ている言語は少ないのではないか。

例えば、“ミノム”は飲む（日本語に似ている？）。“アガマ”は宗教の意味で、日本語の「あがめたてまつる」と同じ語源。“イクット”は「ついて行く」。日本語でも「私も行く」と言う。

“スタ”は「済んだ」。日本語でも同じく済んだと言う。“ボロンボロン”は穴があくことを意味する。日本語では歯がボロボロだと言うように使う。筆者の郷里では衣服が「ボロボロ」と表現する。語源は“ボロンボロン”から出たのでは？“トッカル”は取り換えること。ちなみに“トッカルチンチン”は婚約という意味で、“チンチン”とは指輪。婚約はお互いが、指輪を取り替える事。“アンダナマ”はアンダ（あなた）のナマ（名前）という意味。“マサ”は、まさかと言う意味。“ナガ”は、大きな蛇のこと。蛇は長いから日本語の「長い」は、このインドネシア語の“ナガ”からできたのではと言う説もあり極めて興味が尽きない。“チャンプル”は長崎チャンポンと言われるように混ざり合うという意味である。

日本語に「のるかそるか」という言葉がある。今はあまり使われていないので意味がはっきり

りしないが、インドネシア語に置き換えると意味がはっきりする。「のるか」は電車に乗るのではなく、インドネシア語では”ナラカ”のことで奈落、地獄を意味する。「そるか」はインドネシア語では“ソルカ”で天国のこと。天国へいけるか、地獄へ落ちるかとなり、ここはひとつ「のるかそるか」で大博打を打つという意味になる。このような言葉の類似性は、大昔、インドネシアから黒潮にのり、広東、福建、台湾、沖縄、九州を結ぶひとつの大きな交流があったのではというロマンに似た仮説が生まれる。



<http://www.hankyu-travel.com/> (マラッカ海峡の古都オランダ風赤煉瓦教会)

インドネシア語と呼ばれる言語は、古くて、新しい言語である。1928年に1つの祖国、1つの民族、1つの国語として、当時マレーシア、シンガポール、フィリピン南部で、マラッカ海峡を中心に国際取引用語として話されていたムラユ（マレー語）が基になった。当時インドネシアでは人口の6割を占めるジャワ語が共有語として話されていたが、ジャワ文字は普及せず、アルファベットで表現できるインドネシア語が共通語として急速に広がった。このムラユには国際取引用語として使われた事により、ポルトガル語や英語、中国語、ヒンドゥー語、サンスクリット語等かなりの言語がそれぞれ混ざり合い生まれたのである。

したがって、マレーシア語に極めて似ているというよりも、略同意語に近い。ただし、使い方によっては少しニュアンスが違ってくこともあり、注意が必要。筆者の経験では、例えば、インドネシア語で、日常、友人と「話す」は“ピチャラ”を使うが、マレーシアでは“ピチャラ”は、裁判等で、「陳述する」という意味になる。マレーシアでは“チャカップ”と言う。インドネシアで“チャカップ”と言うと「ハンサム」とか「かっこいい」とかの名詞として使われる事が多く、また、かしこまった席で「申し上げる」という意味で使われる事もある。いくつか代表的なインドネシア語とマレーシア語の違いを下記に纏めてみる。

日本語	インドネシア語	マレーシア語
会社	ブルウサハン (perusahaan)	シャリカッ (syarikat)
事務所	カントル (kantor)	プジャバツ (perjabat)
部屋	カマル (kamar)	ビリッ (bilik)
会社員	カルヤワン (karyawan)	カキタンガン (kakitangan)
病院	ルマ サキッ (rumah sakit)	ホスピタル (hospital)
店	トコ (toko)	クダイ (kedai)
牛	サピ (sapi)	ルンブ (lembu)
靴	スパトウ (sepatu)	カスツ (kasut)
氷	エス/エスパトウ (es/es batu)	アイス/アイスバトウ (ais/ais batu)

～次号へ続く～